

父から娘への贈り物





小学校の先生をしているあつしさん。
娘のかなこさんが生まれて1年を過ぎたころ、
耳が聞こえにくい病気だということを知りました。

「これから彼女は
どうやって言葉を覚えていくのが…」
はじめは不安でしたが、
不安はだんだん和らいでいきました。
彼女は、目で見ただけをほかの人の何倍も
よく覚えることができたのです。

ある日、家族旅行に行きました。
泊まったのは、
多くの部屋がある大きなホテル。
あつしさんたちは一度部屋から出ると、
泊まっている部屋をなかなか探せません。
そんな中、
いつも真っ先に見つけるのはかなこさん。
一度見たものを
しっかり覚えているのです。

あつしさんはある時、
本の執筆を頼まれ、引き受けました。
本の中には、
かなこさんへの父の思いを込めた
話を入れようと決めました。





はじめ、話のテーマに選んだ人物は
ヘレン・ケラーでした。

目は見えず、

耳が聞こえない障がいがありながらも、
世界中の障がい者福祉に尽くし、
奇跡の人と呼ばれた人です。

あつしさんは

ヘレン・ケラーについて調べていくうちに、
彼女が生きる手本にした

日本人に注目するようになりました。
その人は江戸時代の学者、はなわ ほ きいち塙保己一。

彼も目が見えませんでした、
本を読んでもらえる人のところへ

転びながらでも出かけ、
読んでもらった文書を覚えていきました。
のちに数々の本を書き上げました。

「障がいがある人は障がいを
補うものを持っている。

それを使って社会に貢献してほしい。

はなわほまいち

埴保己一のように」。

これが、あつしさんのかなこさんへの
思いとなりました。



わたしのおかあさんは
リハビリ剤いじんです。
おかあさんのとくいなな
うりはなあに？
①おにぎり②おにぎり③うどん
④いごころがすきです。



かなこさんが

小学校卒業を間近に控えた冬のある日。
いつもはかなこさんと担任の先生の2人で
行われている授業に特別ゲストが登場し、

3人の授業となりました。

あつしさんが父として参加したのです。

はなわほ き いち

塙保己一はなわほ き いちの努力や功績、

そして生き方について

語りかけるあつしさん。

普段は上手に関われないかなこさんへの

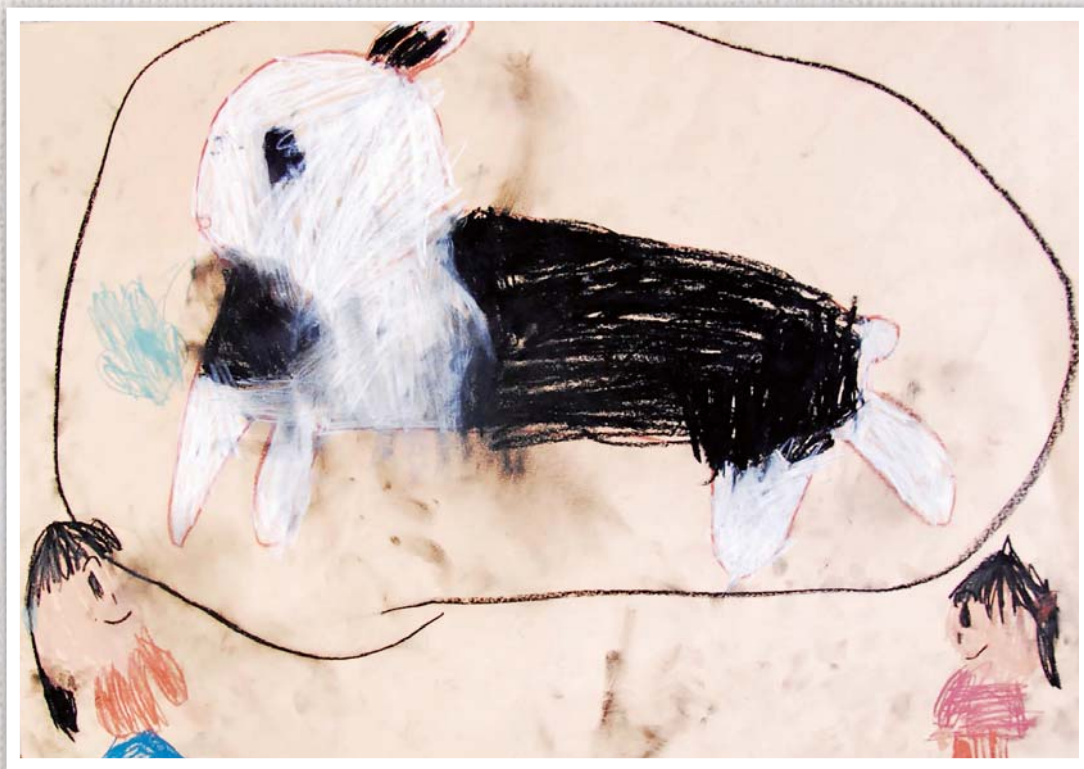
思いを込めました。

いま、この思いは本の一部になりました。

あつしさんからかなこさんへの贈り物です。

かなこさんが中学生になった時、
あつしさんはある本に出会いました。
アメリカのお医者さんが書いた
「耳の聞こえないお医者さん、今日も大忙し」です。
このお医者さんは、
研究医になることを周りから勧められますが、
開業医を選びました。
耳が聞こえる人よりも、患者の表情を読み取り、
患者の心を受け止められる、との信念から。
あつしさんは、マイナスに思いがちな点を
プラスにとって生きていこうという姿勢に、
はっとさせられました。





「いつかは読んでほしい」—。
この本をあつしさんは、
かなこさんの本棚にそっと忍ばせました。
読んでほしい部分にふせんを貼って。

高校生になったかなこさんは
学校でスピーチをすることになりました。

テーマは

「耳の聞こえないお医者さん、今日も大忙し」

あつしさんが忍ばせていた本を
いつの間にか読んでいたのです。

発表には、親への感謝の思いを込めました。

いま、かなこさんは猛勉強中。

「障がいのある子どもたちの役に立ちたい」

お父さんと同じ先生になる夢を
追いかけています。





「聴覚・言語障がい」について

聴覚障がいには、まったく聞こえない「ろうあ」と聞こえにくい「難聴」があります。言語障がいには、言葉の理解や適切な表現が困難な「言語機能の障がい」と、言葉の発声だけが困難な「音声機能の障がい」があります。聴覚障がいと言語障がいが重複することもあります。

★こんな配慮がうれしい！

- ◇適切なコミュニケーション方法を確認
(筆談、口話、手話、代用発声)
- ◇音声以外の情報伝達方法を使う
(ファクス、掲示板など)
- ◇聞き取りにくい場合は、分かったふりをせず内容を確認

あとがき

娘を心配するお父さんの気持ちはみな共通だ。いつもは大変真面目な教育者であろうあつしさん。でも娘のことになると「お母さんの方がよく分かっているんだけど」と照れながらも、嬉しそうに語ってくれた。耳が聞こえる、聞こえないにかかわらず、父親はどう娘と関わったらいいのか、悩みどころだが、あつしさんの娘さ

んへの気持ちは十分に伝わっているだろう。贈った本からだけでなく、普段の仕事や娘さんに対する姿勢から。こんなお父さんの背中を見て育ったかなこさんも、きっといい先生になるだろう。(あ)